

農業と科学

1981
3

G H I S S O - A S A H I F E R T I L I Z E R C O . , L T D .

転換畑用大豆の 新品種について(完)

農林水産省・農林水産技術会議

平 岩 進

先号においては、転換畑用大豆の品種として、キタコマチ、タンレイ、ナカセンナリについて説明したが、引き続き、ミヤギオオジロ、ユウヒメ、アキシロメ、キタホマレ、タマホマレ、フクユタカについて述べる。

4) ミヤギオオジロ (ミヤギシロメ×ほうじやく)

昭和53年長野県農総試中信地方試験場育成

主茎長は「ミヤギシロメより5cm以上長い長茎種で、子実はやや楕円、粒色は黄白色、へそ色は黄色で、障害粒はごく少なく粒揃いも良く、きわめて良質である。立枯性病害は「ミヤギシロメ」より極めて強く、紫斑病も少ない。

抗性はなく、ダイズシストセンチュウに対しても、抵抗因子を持っていない。収量性は「ユウヅル」と同程度であるが、熟期が早いので、比較的安定している。

適地としては北海道の空知中部以南、石狩、後志、胆振、日高およびこれに類似した地帯である。

この品種は極大粒種であるため、中～小粒種に比して発芽にやや多くの日数を要し、発芽率が低下することがあるので、必ず種子消毒を行うこと。また、茎長が短いので、やや密植にすることによって多収が得られるので、800株/a以上の株数を確保する必要がある。

6) アキシロメ (アキヨシ×鳩殺12)

昭和54年九州農業試験場育成

主茎長は「アキヨシ」より15cm短い短茎種で、子実は球形に近く、粒色は黄白、へそ色は黄色で、粒揃いが良く、種皮の亀裂その他の障害も少なく、品質は非常に良い。熟期は、「アキヨシ」より10日前後早い早生種に属する。ダイズウイルス病に対しては中位で、褐斑粒の発生は少なく、べと病には比較的強く、紫斑病の発生も少

表-5 ミヤギオオジロの育成地における試験成績

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	茎 長 (cm)	主 茎 節 数	分 枝 数	生育中の障害				a 当り収量		百 粒 重 g	虫 害 粒	品 質
						倒 伏	ウ ル イ ス	変 化	立 枯 れ	子 実 重 kg	同 比 左 率			
ミヤギオオジロ	8.4	10.17	71	17.0	4.8	微	微	微	微	15.1	105	30.7	無	上中
ミヤギシロメ	8.2	10.12	65	16.6	6.1	微	無	無	中	13.1	100	35.4	微	上下
タマヒカリ	8.4	10.15	76	18.2	5.3	少	微	微	微	15.7	115	28.7	微	上下

昭和48～50年の平均値

成熟期は「ミヤギシロメ」より5日程度遅い中晩生種で晩播適応性も高く、強稈性の極大粒良質種である。適地としては宮城県「ミヤギシロメ」栽培地帯で、とくに立枯性病害発生地に適す。また、極大粒で強稈のため伸長し大粒になりやすい肥沃地及び多肥栽培に向く。

5) ユウヒメ (奥原1号×木造在来)

昭和54年北海道立中央農業試験場育成

主茎長は「ユウヅル」より15cm短い短茎種で、子実は豊満な球形で種皮色はやや黄色、へそ色は黄色である。子実の100粒重は「ユウヅル」よりやや小さいが、約40gで極大に属し、粒揃いも良く、亀裂粒、しわ粒も少なく、外見の品質は良好である。

開花、成熟は「ユウヅル」より早く、中生種に属する。耐倒伏性は「ユウヅル」並の中程度である。ダイズわい化病に対しては、「ユウヅル」よりやや強いが、抵

ない。耐倒伏性は「アキヨシ」より強く、子実収量は「中鉄砲」、「シロタエ」より多く、安定多収品種であり、晩播適応性も高い。

適地は中国、近畿地方の中央平坦地であり、水田転換

<3月号目次>

- § 転換畑用大豆の新品種について(完)……………(1)
農林水産省・農林水産技術会議
平 岩 進
- § 乾田直播水稻に対する
LPコート of 肥効……………(3)
横山 鹿 男
- § 冷害、農業経済に大きく影響……………(6)
～55年度農業観測修正見通し～
- § りんご栽培技術の普及見込み……………(8)

表一6 ユウヒメの育成地における試験成績 主莖長は「中鉄砲」,「シロタエ」より短かく、倒伏、

昭和50~53年の平均値

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主莖長 (cm)	主莖 節数	稔実 莢数 (莢/株)	1 莢内 粒 数	倒伏 程度	a 当り収量(kg)		百粒重 (g)	しわ粒	亀裂粒	品 質
								子実重	対 比				
ユウヒメ	7.23	10.1	48	12.1	53.5	1.91	0.9	34.1	105%	41.0	無	極微	中上
ユウヅル	7.29	10.13	61	14.7	56.4	1.78	1.5	32.4	100	41.8	極微	微	上下

表一7 アキシロメの育成地における試験成績 蔓化は少ない。子実は球形で、種皮色、ヘソ色とも黄色

昭和49~53年の平均値

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	莖 長 (cm)	主莖 節数	分 枝 数	生育中の障害				a 当り収量		百粒重 (g)	虫害粒 %	品 質
						倒 伏	ウ イ ス	べト病	サビ病	子実重	同 左 比 率			
アキシロメ	8.18	10.24	39	11.8	3.5	無	無	微	中	20.8kg	78%	25.8g	18.6	上
アキヨシ	8.25	11.5	54	14.2	5.0	微	無	微	微	25.8	100	22.3	14.5	中

畑においても栽培が容易である。

7) キタホマレ (十育114号×カリカチ)

昭和55年北海道十勝農業試験場育成

主莖長は「キタムスメ」より短く、子実はやや扁球形で、種皮色は黄白、ヘソ色は暗褐色である。100粒重は30g内外で、外見の品質は「キタムスメ」並である。成熟期は「キタムスメ」より3~6日遅く、中生の晩に属する。耐倒伏性、耐病虫害性は「キタムスメ」並である。耐冷性は「キタムスメ」並で強く、収量は「キタムスメ」に比べて約15%多収で、極めて高い収量性を示す。

この品種は、北海道の道央中部および道央南部地域に適すが、ダイズシストセンチュウ抵抗性をもたないので被害の恐れのある圃場での栽培は避ける必要がある。

8) タマホマレ (Lee×東山7号)

昭和55年長野県中信農業試験場育成

表一8 キタホマレの育成地における試験成績

昭和48~54年の平均値

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主莖長 (cm)	主莖 節数	稔実莢数 (莢/株)	倒伏 程度	耐冷 性	虫食粒数 率 (%)	a 当り収量(kg)		百粒重 (g)	品 質
									子実重	対比(%)		
キタホマレ	7.24	10.6	51	11.6	68.4	0.4	強	-	32.8	111	31.7	中上
キタムスメ	7.23	10.1	60	12.0	61.6	0.6	強	-	29.3	100	30.5	中上
北見白	7.25	10.2	54	12.7	68.8	0.3	強	-	27.6	94	25.2	中上

表一9 タマホマレの育成地における試験成績 紫斑病の発生も少ない。着莢性は良好で、多収であり、

昭和46~54年の平均値

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	倒 伏 程 度	主莖長 (cm)	a 当り 子実量 (kg)	同 左 標 比 (%)	百粒重 (g)	障害粒程度			品 質
								紫斑	褐斑	亀裂	
タマホマレ	8.2	10.25	微	72	24.8	113	27.2	無	微	無	上下
中鉄砲	8.5	10.22	中	86	22.0	100	32.1	無	微	微	中上
シロタエ	8.3	10.23	微	81	22.7	103	32.9	無	微	少	上下

最下着莢位置は他の品質より高い。

この品種は、福岡県を中心とした九州北部地

表一10 フクユタカの育成地における試験成績 方の平坦地および、四国の北部地方の水田転換畑によく

昭和49~54年の平均値

品 種 名	開花期 (月・日)	成熟期 (月・日)	主莖長 (cm)	分枝数 (本)	臍 色	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	品 質	粒 の 障 害		
									紫 斑	褐 斑	種皮の 亀裂
フクユタカ	8.24	10.30	53	4.1	淡 褐	26.3	25.9	上	無一微	無	少
アキヨシ	8.26	11.4	56	4.8	"	25.6	21.9	中	"	"	"

適す。